

# 映画『峠 最後のサムライ』公開関連事業に関する 記者発表要旨

日 時：令和4年5月19日（木）午後5時から  
会 場：T・ジョイ長岡 シアター7

【発表項目：映画『峠 最後のサムライ』公開関連事業について】

出席者：長岡市長 磯田 達伸

（司会）

ただいまから、映画『峠 最後のサムライ』公開関連事業に関する記者発表を行います。はじめに、このたびの関連事業の概要について磯田市長がご説明いたします。

（長岡市長）

幕末の長岡藩の家老・河井継之助を主人公とする映画『峠 最後のサムライ』が6月17日に公開されることになりました。

長岡市では、映画公開をきっかけに河井継之助への関心を高めていきたい、また、この感染禍で大きく落ち込んだ観光需要の回復を図っていきたいということで、関係団体の皆さんと協力しながら、観光PRや誘客に努めていきたいと考えております。ぜひ県内外の多くの方々に、河井継之助の魅力に触れ、そして長岡を訪れ、長岡の魅力に触れていただければと思っています。

資料に基づいてご説明いたします。

まず、河井継之助記念館の企画展です。これは司馬遼太郎記念館が昨年開催した「峠」の企画展をもとに、同館の監修により開催するものです。司馬遼太郎記念館館長の特別な計らいで実現した企画展で、同館がこのような監修をするのは初めてだと伺っております。非常に充実した内容で、初めて見ることのできる資料やパネルがあるということで、多くの方々に河井継之助を知っていただくいい機会になると思っております。

この企画展は、映画公開日の6月17日から8月28日まで実施します。テーマは「『峠』—河井継之助は何を見据えたか」です。小説「峠」を基軸にしながら、河井継之助の人物像を多面的に紹介していくというもので、その生き方、思想に迫る内容になっております。また、初公開となる河井継之助の自筆書状も展示されます。これは、旧日本互尊社から寄贈されたもので、継之助が父親に書いた手紙でありまして、妻のすがとの心のやりとり、新潟湊近辺に出没する外国船の噂への関心などが記されています。長岡における司馬遼太郎氏の足跡の紹介や、山田方谷記念館や只見町の河井継之助記念館の協力を得て継之助ゆかりの地を巡るパネル展示も行うなど、見どころ満載の内容となっております。この企画展で、映画には出ていない、映画の背景となるような内容を皆様から見ていただきたいということでもあります。

続いて、小中学生映画鑑賞促進事業ですが、子どもたちからもぜひ映画を見ていただくため、T・ジョイ長岡でこの映画を鑑賞する際に、料金が通常の1,000円から半額の500円になる特典が受けられるサービスを先着2,000人を対象に行います。対象となる小中学生には、6月初旬を

目途に鑑賞補助券を配布します。

続いて、映画公開記念講演会です。河井継之助のファンで、著名な林修さんによる講演会ですが、林氏は継之助を日本の大人物の一人と評しておられ、ご自身でもいろいろ調べておられる、知識の豊富な方です。「河井継之助に想いを寄せて～映画『峠 最後のサムライ』公開のこの機に～」との演題で、6月1日に長岡リリックホールで講演いただくもので、既に申し込みの受け付けは終了しております。定員を大きく上回る申し込みがあり、河井継之助に対する関心の高さを感じております。

続いて、映画鑑賞券の半券キャンペーンですが、これは映画鑑賞券の半券や河井継之助記念館の入場券の半券をお持ちいただくと、登録した73店舗でお得なサービスが受けられるものです。期間は6月17日から9月30日までです。ぜひ映画をご覧いただき、記念館に足を運んでいただき、登録店でサービスを受けていただきたいと思います。

続いて、シネマ・アドバタイジングを活用した観光PRの実施です。6月17日から2週間、首都圏の映画館18館において、『峠』の映画の上映前に長岡市の観光PR動画を30秒放映するというものです。

その他の取り組みにつきましては、資料に記載のとおりです。このほかにも、様々な団体や企業による映画公開に合わせたキャンペーン等も準備されていると聞いております。そのような取り組みも含めて、本日も来場の報道機関の皆様方からも引き続き、河井継之助と長岡の魅力発信にご協力をいただきたいと思います。

(司会)

それではこれより質疑応答に入ります。

(記者)

2年の延期を経て公開が決まったことについて、改めて市長の思いをお聞かせください。

(長岡市長)

2年間、3度にわたる延期となり本当に残念な思いをしてきましたが、こうして公開の日を目前にしますと、今の日本や世界の状況、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻という大きな災いや出来事にさらされて、立ち往生し、非常に苦しんで悩んでいる社会状況の中で、河井継之助の映画を見ていただいて深い想いをくみ取っていただければ、私としては凶らずもベストタイミングの公開になったと考えております。

河井継之助記念館の話になりますが、入館者の6割から7割が県外の方で、会社の経営者の方が多く、リピーターも多いとのこと。その理由について、経営上の悩みや壁にぶつかった時、記念館で河井継之助の思想に触れることで大きな力になるからではないかということ。記念館の方と話をしたことがあります。そのようなことを踏まえると、このタイミングで公開されることを本当にうれしく思っております。

(記者)

新型コロナウイルス禍からの転換のタイミングになりつつある状況の中で、そうした全体的な状況を踏まえての思いをお聞かせください。

(長岡市長)

これからの経済見通しなどを考えると大変な時代になっているという思いもある一方で、感染状況が徐々に落ち着きつつあって、今年は長岡まつり大花火大会などを実施予定という中で、元の生活を取り戻す、にぎわいや活気を取り戻す一年にしていくべきだろうと思っております。多くの方々から長岡に来てもらうきっかけとしてこの映画の公開があるということで、長岡の魅力発信の絶好の機会にしていきたいと思っております。

(記者)

子ども向けの企画もありますが、長岡に河井継之助という人物がいて、それにまつわる歴史

のエピソードもあるということで、子どもたちに対してどのような発信を行っていきたいか、お考えをお聞かせください。

(長岡市長)

新型コロナウイルス禍で誰が本当に困っているのかを考えると、全ての国民が大変な思いをしています。とりわけ子どもたちは大変で、いつもマスクをして1日1日成長し、頑張っていると思います。子どもたちには、郷土の先人のことを知ってもらって、何かを感じてもらい、頑張るきっかけにしてほしいと思っています。

(記者)

この映画を観光につなげていく考えや、またそれに伴う経済活動などへの期待についてお聞かせください。

(長岡市長)

今年は長岡まつり大花火大会を行うなどいろいろなイベントを再開するというので、長年やってきた長岡の魅力のプロモーションを再開する年だと思っています。そういう中で米百俵などの長岡の歴史を考えた時に、河井継之助の存在は非常に大きなものがあると思っています。それが社会的にも、精神的にも意義があるものであるということを訴えながら、長岡の魅力を皆さんに知っていただいて、観光に訪れていただきたいと思っています。

また、観光面だけでなく、長岡はこういう形で頑張ってきたしこれからも頑張るということ。これを魅力として、イノベーションという面も含めてさらに広く訴えていきたいと思っています。

(記者)

子ども向けの映画鑑賞促進事業について、先着2,000人ということでしたが対象は長岡市内の全小中学生でよろしいでしょうか。

(長岡市長)

そうです。

(記者)

司馬遼太郎記念館の監修による初の企画展ということですが、河井継之助を通して県外の施設と連携することに関してはどのように感じておられますか。

(長岡市長)

河井継之助記念館の開設の際は、司馬遼太郎氏の小説「峠」を中心として展示等を企画した経過があります。実際に、司馬遼太郎記念館に行っているいろいろなことを教えてもらい、連携をとるなど、ある意味で「兄弟館」のような形でやってきて、今回の企画展につながりました。

また、福島県只見町など継之助とゆかりのあるところとの連携については、八十里越の道路整備が進んでいますので会津地方との観光周遊ルートの開発とセットで進めていきたいと思っています。

(記者)

改めまして、長岡市民の皆さんにメッセージをお願いします。

(長岡市長)

実は、この映画にはエキストラの方が約2,000人出演されています。

長岡でも1,000人近い方が出演され、早く自分の姿を映画の中で見たいという話なども聞いております。出演した方は、ぜひご自分の姿を見ていただきたいですし、河井継之助への想いを深めていただければうれしく思います。本当に大変な時代ではありますが、市民の皆様には、米百俵や河井継之助といった長岡の歴史の中にそれを切り抜けていく力があるという思いを、改めて持っていただきたいと思っています。

(司会)

それでは、以上をもちまして記者発表を終了いたします。